

4:1 その後、私は見た。すると見よ、開かれた門が天にあった。そして、ラッパのような音で私に語りかけるのが聞こえた、あの最初の声があった。「ここに上れ。この後必ず起こることを、あなたに示そう。」

4:2 たちまち私は御霊に捕らえられた。すると見よ。天に御座があり、その御座にしている方がおられた。

4:3 その方は碧玉や赤めのうのように見え、御座の周りには、エメラルドのように見える虹があった。

4:4 また、御座の周りには二十四の座があった。これらの座には、白い衣をまとい、頭に金の冠をかぶった二十四人の長老たちが座っていた。

4:5 御座からは稲妻がひらめき、声と雷鳴がとどろいていた。御座の前では、火のついた七つのともしびが燃えていた。神の七つの御霊である。

4:6 御座の前は、水晶に似た、ガラスの海のようにであった。そして、御座のあたり、御座の周りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。

4:7 第一の生き物は獅子のようであり、第二の生き物は雄牛のようであり、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は飛んでいる鷲のようであった。

4:8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その周りと内側は目で満ちていた。そして、昼も夜も休みなく言い続けていた。「聖なる、聖なる、聖なる、主なる神、全能者。昔おられ、今もおられ、やがて来られる方。」

4:9 また、これらの生き物が栄光と誉れと感謝を、御座に着いて世々限りなく生きておられる方にささげるとき、

4:10 二十四人の長老たちは、御座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝した。また、自分たちの冠を御座の前に投げ出して言った。

4:11 「主よ、私たちの神よ。あなたこそ栄光と誉れと力を受けるにふさわしい方。あなたが万物を創造されました。みこころのゆえに、それらは存在し、また創造されたのです。」

ヨハネが見たのは幻であって現実ではありません。しかしそれは神からの啓示であって、確実に「この後必ず起こること」なのです。ヨハネは幻を文章で表し、私たちはその文章から想像するのですから、視覚的に完全に再現できるわけではありません。しかし啓示である以上、聖霊によって霊的には十分に再現できるのです。私たちは視覚的な再現よりも、信仰的な意味を受け止める必要があります。

ここで明確に分るのは、この世で起きることは天で起きることと連動しているということです。天には主の御座があり、その永遠の権威が地を動かすのです。24人というのは、旧約のイスラエル12部族と、イエス様の弟子の12人に代表される新約のクリスチャンであり、全ての時代の信仰者の代表と考えられます。信仰者は金の冠を被るほどに栄光が与えられるのです。

またその天は地上のものとは全く比べることのできないほどに、栄光に満ちてることが、水晶やガラスの海という表現でわかります。私たちが日常で主の偉大さを感じられなくとも、主は驚くべきお方なのです。

この四つの生き物は「聖なる…」と主をほめたたえています。ししの勇気と力、雄牛の忍耐と

労力、人間の徳と愛、わしの高邁な精神を持っていることに心を留めるべきです。主の栄光を表すとは、それらのような生き方によるのです。現在の私たち信仰者の生き方が主の栄光を表すことを覚えて励みとしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

